

「分かる!」「できる!」を実感できる
授業づくりチェックシート

指導のポイントは
二次元バーコードへ



項目	具体的な実践内容	チェック
1 視覚的 刺激量 の調整	○ 黒板・黒板まわりがすっきりしている	
	○ 先生の机上・棚がすっきりしている	
	○ 教室内の棚・床がすっきりしている	
	○ 先生の表情が基本的におだやか	
2 聴覚的 刺激量 の調整	○ 先生の声量は使い分けられている (一斉・個別・注意等)	
	○ 人権感覚のある先生の言葉遣い	
	○ 授業中の静寂が存在する(静かに聴く場面の確保)	
3 クラス内の 理解促進	○ 「分からない」「教えて」と言える雰囲気づくり	
	○ 柔らかい雰囲気をつくる言語環境づくり	
	○ ペア・グループ学習がスムーズに成立する学級経営	
4 ルールの 明確化	○ 学習規律が存在する	
	○ ルール定着のための指導が継続的になされている	
5 時間の 構造化	○ 45(50)分の見通しが示せる指導計画を立てている	
	○ 45(50)分の授業の流れ(見通し)を視覚的に示している	
6 焦点化	○ めあてが「焦点化」されている	
	○ 注目したくなる、考えたくなる等の工夫がなされている	
7 スモール ステップ化	○ 漠然とした指示でなく具体的な指示になっている (1回で1つの指示)	
	○ 必要に応じて具体例・手本・ヒントの提示・考え方の共有等の工夫がなされている	
8 視覚化	○ 口頭だけに頼らない情報伝達の工夫(見える化)がなされている	
	○ 目で見て確認・理解ができる工夫がなされている	
9 動作化 作業化	○ 45(50)分間 座学にならない工夫がなされている	
	○ 体や感覚を使って理解を深める活動を取り入れている	
10 共有化	○ 子ども同士の活動が設定されている	
	○ 子ども同士で意見を交換する場が設定されている	
11 指示の 出し方 関わり方	○ 具体的に・短く・肯定的に・視覚的に話せている (ぐみこし)	
	○ 否定的注目よりも肯定的注目を心がけている	
	○ 否定的関わりよりも肯定的関わりを心がけている	

刺激の調整
整理整頓



活動の見通し



個別支援



一斉指導の
工夫



発問・指示



ユニバーサルデザインの視点を取り入れた「分かる!」「できる!」
学校全体で取り組む授業の土台づくり ハンドブック

活用ナビ

すべての子どもの
「分かる!」「できる!」のために



ユニバーサルデザインの視点を取り入れた

「分かる!」「できる!」

学校全体で取り組む授業の土台づくり

ハンドブック



1	インクルーシブ教育システム構築のための特別支援教育の推進	2
2	ユニバーサルデザインとは	2
	ユニバーサルデザインを取り入れた授業とは	
3	通常の学級担任に求められる配慮と指導力	3
4	すべての子どもを対象とした校内支援体制整備の在り方	4
5	すべての子どもにとって過ごしやすい環境づくりと実践例	13
6	「分かる」「できる」を実感できる授業づくりの進め方と実践例	21
7	「分かる」「できる」を実感できる授業づくりチェックシート	32
8	参考資料・文献 作成検討委員名簿	33



個別の配慮が必要になった時は・・・

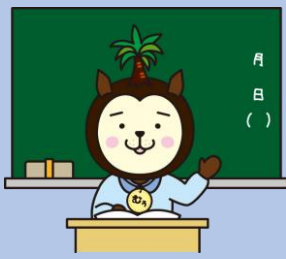
「合理的配慮」
合意形成サポートシート

Word形式



PDF形式





すべての子どもを支える校内支援体制
はどのようなものですか？

ポイントは

- まず、レベル0の支援からスタート

【困難さが生まれにくい学校全体の支援体制の充実】

何かが起こってから指導
↓
予防的な先回り支援へ

スクールワイド
PBS

P5



担任をチームで支えるための組織づくりはどのようなもの
ですか？

ポイントは

- 特別支援教育の推進について学校経営に明確に
位置付け

子どもに寄り添う担任が一人で抱え込まずに、組織
で子どもや担任を支え合えるようなチームづくり

P6



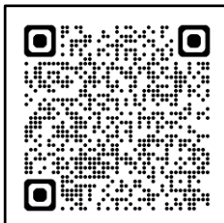
校内支援体制の中で、私はどんな役割になりますか？

ポイントは

- 自分ごととして捉える意識と日常的な相談・連携

P6~10

特に、中学校において学校全体すべての生徒を対象
とした「レベル0」の支援を充実させるためには、生徒
指導主事と特別支援教育Coの協働した取組が重要



すべての子どもにとって過ごしやすい学習環境
とはどのようなものですか？

ポイントは

- 子どもにとって学びやすい環境
- 子ども自身が自力でできる学習環境

具体的な5つの視点

- ① 刺激の調整
- ② 整理整頓への手立て
- ③ 活動の見通し
- ④ 評価による意欲付け
- ⑤ 教師の話し方・発問や指示

P13~20



「分かる」「できる」を実感できる授業づくり
はどう進めればよいですか？

ポイントは

- まずは子どもの「実態把握」からスタート
- 「不安」「分からない」「つまずき」の解消へ

※ ①~④の順番で授業づくり

- ① 実態把握 P22
- ② 一斉指導の工夫 P23
- ③ 個別の支援 P27
- ④ 個に応じた特別の指導・支援 P29

「子ども」の実態
把握からスタート

P21~30



ハンドブックの活用例を教えてください。

- エリア拠点校を中心とした
実践を紹介します。

